

基礎漢方薬学 実習

実施日：2016年7月9日(土)

場所：大阪薬科大学C棟401実習室および薬用植物園

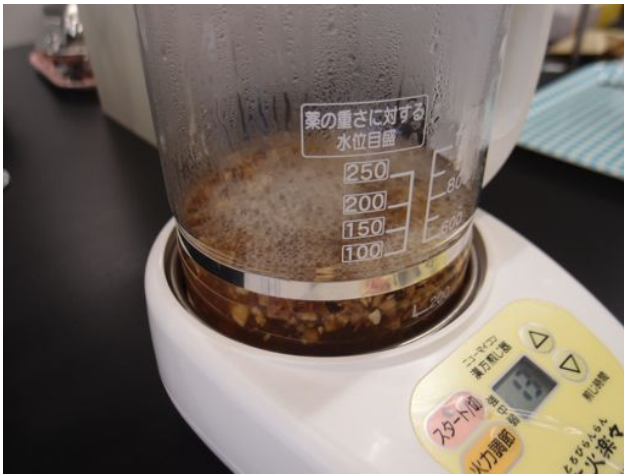
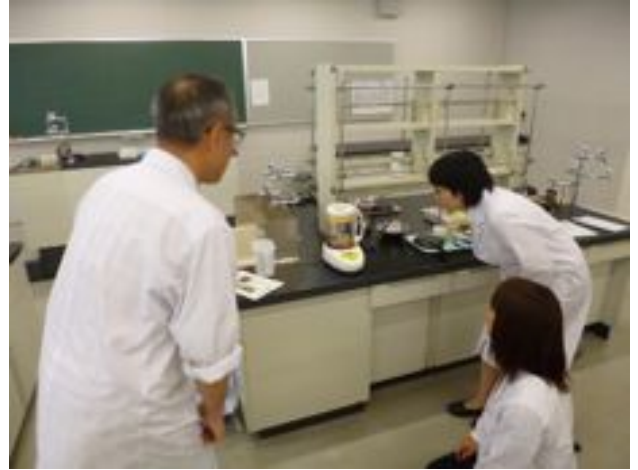
対象：関西大学システム理工学部 「基礎漢方薬学」履修者の中の実習希望者

昨年度まで大阪薬科大学より「生薬学2」として配信されていた科目が、今年度から「基礎漢方薬学」と科目名が変更になり、講義内容も漢方の基礎的知識を学び、漢方治療に用いられる生薬の薬能と処方全体から漢方薬を考える力を養う講義内容へと変わりました。講義内容の理解を深めることを目的として関西大学の学生向けに実習が実施されました。

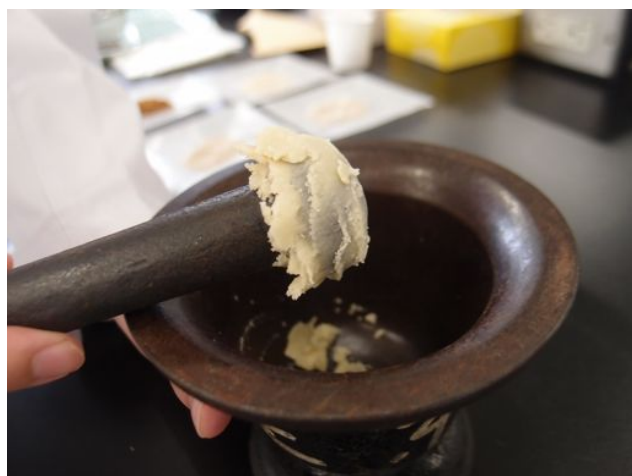
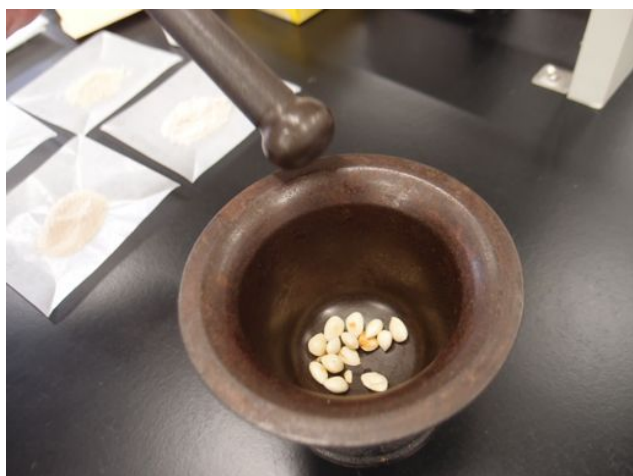
実験実習では、慢性疲労などに有効な『補中益気湯』を煎じ、婦人科領域で使用される『桂枝茯苓丸』の調剤を行いました。また、薬用植物園の見学では、「基礎漢方薬学」の講義で取り上げられた様々な漢方薬の構成生薬や清涼飲料の甘味づけに使用されているステビアなど西洋の生薬が栽培されている園内を観察しました。春ウコンとウコンの違いを葉の裏側のうぶ毛の手触りで確認し、可食のものは味見をするなど、触覚・味覚・嗅覚・視覚で認識することにより理解を深めました。

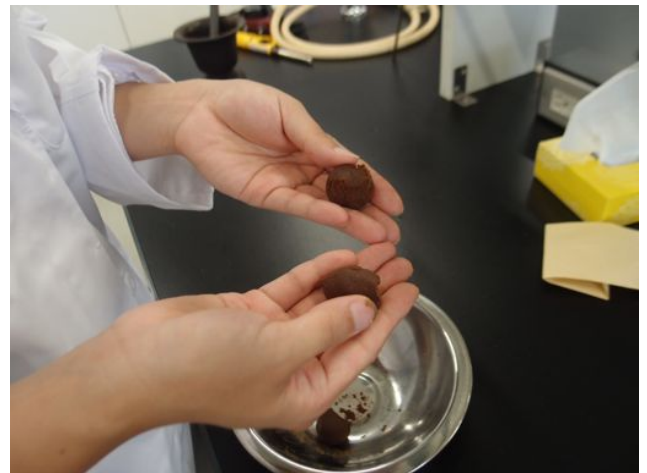
本来の漢方薬の剤形としては、「湯剤」、「散剤」、「丸剤」、「軟膏」などの種類があります。「湯剤」は、刻んだ生薬を煮出して成分を抽出するもので、「煎じ薬」のことです。今回の実習では、補中益気湯の湯剤と桂枝茯苓丸の丸剤の調剤を行いました。補中益気湯は金元時代（紀元10世紀以降の中国）の名医李東垣（りとうえん）が創薬した処方で、中（消化器）を補って元気を益すという意味が込められています。現代医療においても、がんの化学療法剤と併用するなど幅広く用いられています。学生は、補中益気湯を構成する10種類の生薬（黄耆・人参・白朮・当帰・柴胡・大棗・陳皮・甘草・升麻・生姜）の1日量を計りとり、水とともに煎じ器に入れ、約20分煎じました。出来上がった補中益気湯は、漢方薬特有の香りと苦みと甘みが合わさった味わいがありました。



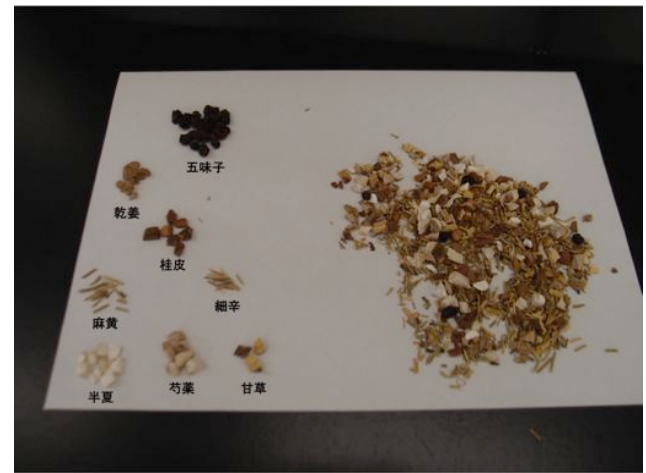
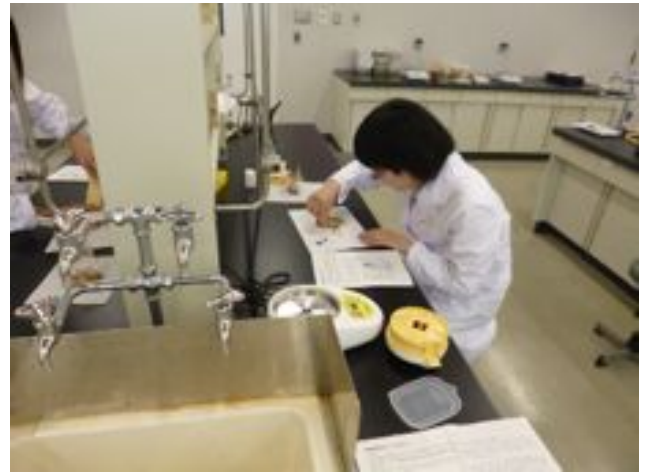


次に桂枝茯苓丸の丸剤を調剤しました。桂枝茯苓丸は瘀血症状（鬱血や血行障害など、血の流れの滞り、またはそれによって起きるさまざまな症状）に用いられる漢方薬で、婦人科領域の中でよく処方されています。桂枝茯苓丸を構成する5種類の生薬（桂皮・茯苓・牡丹皮・桃仁・芍薬）を計り取りました。桃仁は熱湯に浸し皮を剥き、表面に少し焦げ目が付く程度に煎りました。その後鉄乳鉢で粉末にし、他の生薬も混ぜ合わせました。次に蜂蜜を鍋に入れ、弱火で水分を飛ばし煉蜜を作りました。生薬粉末と煉蜜を練り合わせ、粘土状にしてから20粒の丸薬に成形しました。



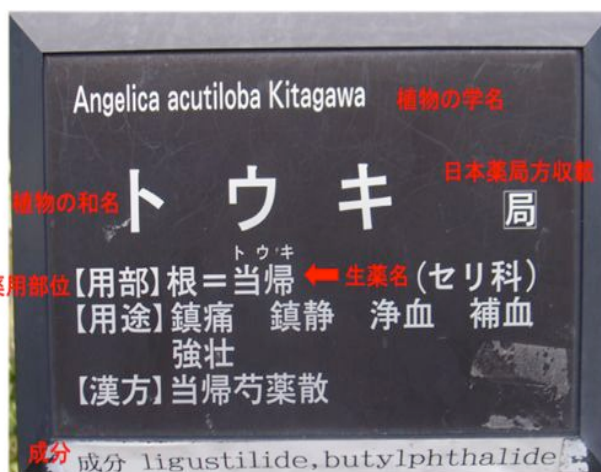


実験実習の最後は、生薬の鑑定試験を行いました。学生は刻み生薬で処方された漢方薬を手渡され、その漢方薬の中に何種類の生薬が配合されているか、その生薬名の同定と構成生薬から漢方薬名を考えました。手渡された漢方薬は、麻黄・桂皮・芍薬・半夏・五味子・細辛・乾姜・甘草の8種類で構成されている小青龍湯でした。学生は芍薬と半夏、麻黄と細辛の識別が困難なようでした。小青龍湯は、風邪や気管支喘息、花粉症等のアレルギー性鼻炎などに処方される漢方薬であり、今回実験実習で取り上げていただいた漢方薬は身近なものであることから大変興味深く、熱心に取り組んでいました。実習後に桂皮・茴香・丁子を頂いて帰った学生は、自宅でチャイティー・ラテを作って飲んだそうです。後日“おいしかった”と感想を聞かせてくれました。



大阪薬科大学の薬用植物園はキャンパスの東側に位置し、セリ科植物、ナス科植物、マメ科カンゾウ属植物など約 300 種の重要薬用植物を含め、1,000 種を越える植物が栽培されています。ほとんどの植物を間近で観察することができました。日光量の調節管理が非常に難しい薬用人参（オタネニンジン）やビニールハウス内で栽培されている薬用植物、チョウセンアサガオなどの有毒植物を観察しました。また、麻黄の赤い果実やステビアの葉などの可食できるものは味見をし、春ウコンとウコンの葉の裏側のうぶ毛を触り違いを確認しました。私たちが普段食卓で目にしてしているシソ（蘇葉）やショウガ（生姜）も薬用植物として栽培されていました。生姜は葉の部分を擦るとショウガ独特の香りがし、とても印象的でした。視覚・味覚・触覚・嗅覚を使って漢方薬に配合されている生薬の基原植物について詳しく説明していただきました。関西大学では普段行うことの出来ない実験実習や薬用植物の見学を体験することができ、とても貴重な経験になりました。最後になります

が、ご教示いただきました大阪薬科大学薬学部生薬科学研究室 芝野真喜雄准教授ならびに大阪薬科大学医工薬連環科学研究機構 銭田晃一特任准教授に心より感謝申し上げます。

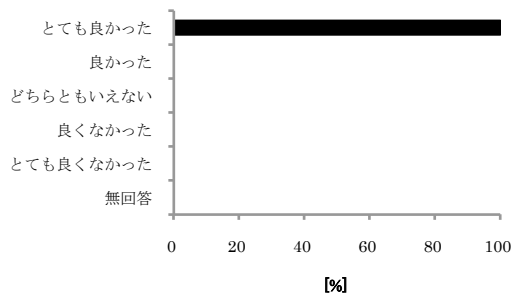




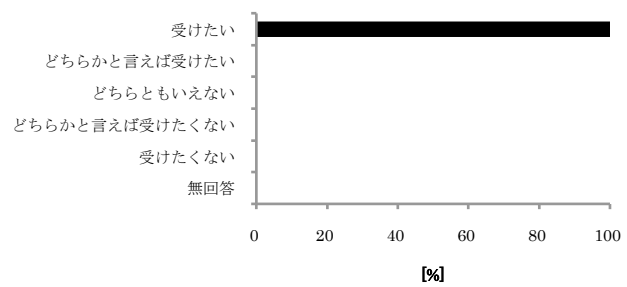


基礎漢方薬学 実習アンケート結果

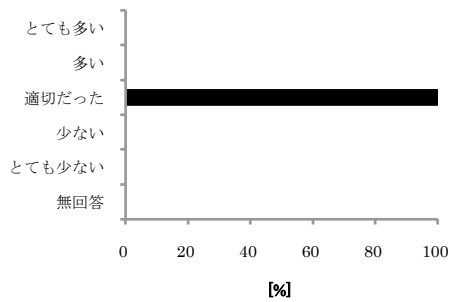
今回の実習はどうでしたか？



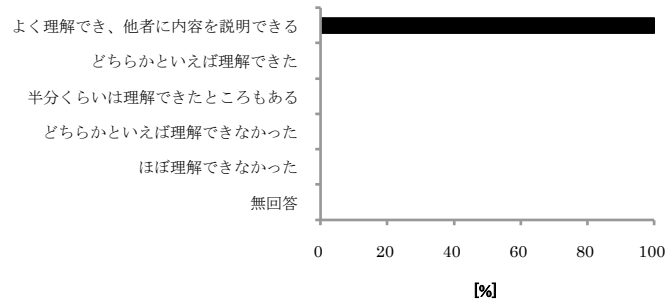
このような実習のある授業をまた受けてみたいですか？



今回の実習の情報量は適切でしたか？



今回の実習の内容は理解できましたか？



今回の実習で何が一番印象に残りましたか？

- ・生薬の味が一番印象に残りました。ほとんど全部頂けました。

感想・質問などがあればお書きください。

- ・いい経験になりました。ありがとうございます。